



MIGA

多数国間投資保証機関

世界銀行グループ

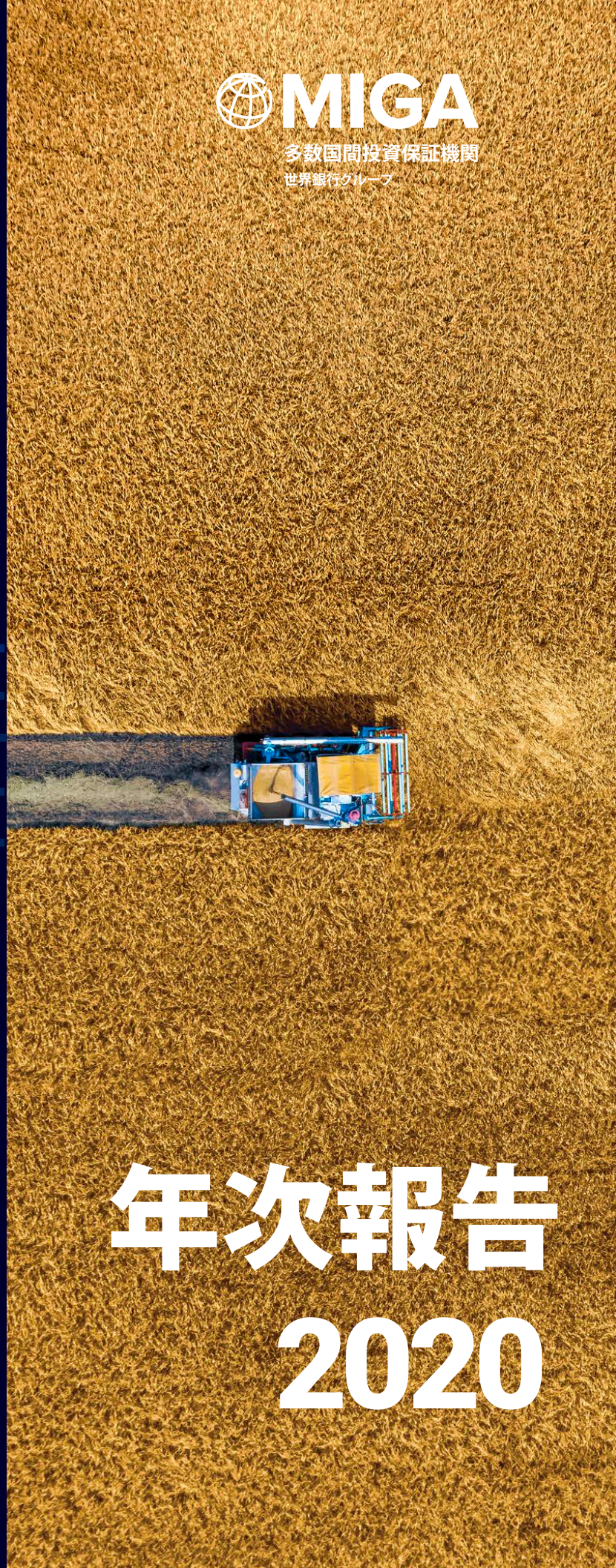
COVID-19
への対応

開発成果

環境的・社会的
持続可能性

投資の保護

再保険



年次報告 2020

MIGA とは



投資家や貸手に保証（政治的リスク保険及び信用補完）を提供することにより、民間による途上国への国際投資を促進する—これが MIGA の使命です。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の蔓延により、2020 年の世界の対外直接投資（FDI）は最大で 40% 減少すると予測されています。また、世界銀行グループは、世界経済は第二次世界大戦以降最悪の景気後退局面に直面するとの見通しを発表しました。途上国では、開発の重要な成果が消え去り、何百万という人々が極度の貧困に押し戻されてしまう危険性があります。



こうしたさまざまな課題を背景に、MIGA の役割と使命はかつていないほど極めて重要になっています。2020 年度、MIGA は新たに約 40 億米ドルの新規保証を提供し、総額 70 億米ドルを超える融資の動員を支援しました。2020 年度のプロジェクトにより、約 1,240 万人が新たに電気を利用できるようになります。さらに、年間の現地調達額は 430 万米ドルに達し、二酸化炭素換算で年約 300 万トンの排出が回避される見込みです。



世界銀行グループの一員である MIGA は、経済的、環境的、社会的に持続可能なプロジェクトを推進し、大きな開発成果をもたらすことにコミットしています。MIGA は、通貨の兌換や送金の制限、政府による契約不履行、収用、または戦争、内乱といった投資家が直面するリスクの緩和を支え、政府債務に信用補完を提供することでその使命を果たしています。

世界各地での活動

2020年度、世界銀行グループは開発成果の達成、主要なパートナーの動員、そして感染症の世界的流行と世界規模の経済課題という前例のない状況への対応を通じて、途上国を支援しました。

48 億ドル
中東・北アフリカ地域

92 億ドル
ヨーロッパ・
中央アジア地域

105 億ドル
東アジア・
大洋州地域

128 億ドル
ラテンアメリカ・
カリブ海地域

144 億ドル
南アジア地域

254 億ドル
サブサハラ・
アフリカ地域

総額 771 億ドル加盟国の政府・
民間企業に対する融資、グラント、
直接投資、保証等の支援総額*

* 複数の地域にまたがるプロジェクトやグローバルなプロジェクトを含む。地域別内訳は世界銀行の分類による。

総裁からの メッセージ

2020年は、新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、世界中の国々が前例のない課題に直面し、保健医療、経済活動、生計を揺るがす深刻な混乱への対応に追われました。世界銀行グループは、貧困の削減と繁栄の共有の促進という使命の下、各国の対応を最前線で支え、必要な支援を迅速に提供することにより、重要な物資の確保、人的被害や経済的困難の緩和を通じ、長年の努力の末に達成された開発成果が失われることのないよう支援しました。こうした取り組みを通じた世界銀行グループの目標は、最貧困層・最脆弱層が置かれている状況を短期的・長期的に改善することにあります。

新型コロナウイルス感染症の世界的流行が始まった際、世界銀行グループは直ちにファストトラック・ファシリティを立ち上げ、広範な分野で断固とした措置を講じました。世界的流行に起因する多様なニーズに対応するため、新規プロジェクトや既存プロジェクト再編を通じ、2021年6月30日までの15カ月間に最大1,600億ドルを支援します。この内、500億ドル超は国際開発協会（IDA）の資金で、グラント（無償資金）又は譲許的融資の形で提供されます。

2020年5月には早くも100カ国で緊急保健プロジェクトが始動しました。初期のプロジェクトでは、感染症の拡大抑制と保健サービスの能力強化に重点が置かれました。世界銀行グループは供給業者との代理交渉等、調達や物流の支援を通じて、各国が必要不可欠な医療品・医療機器を確保できるよう取り組みました。多くの途上国は物資の確保を輸入に頼っているため、価格変動や貿易制限から大きな影響を受ける立場にあります。国際金融公社（IFC）と多数国間投資保証機関（MIGA）は途上国の民間セクター、特に主要産業の企業に対して、ビジネス継続に不可欠な運転資本や貿易金融を提供し、金融セクターが有望な現地企業への融資を継続できるよう支援しました。

3月、世界銀行と国際通貨基金（IMF）は二国間債権国に対し、IDA借入国の債務の返済猶予を求めました。これを受けてG20諸国の首脳は4月、二国間債務の返済を



2020年5月1日から同年末まで一時停止するという歴史的合意を発表し、民間債権者にも同等の対応を呼びかけました。これは国際協力を通じた力強い最貧国支援の事例と言えるでしょう。

世界銀行グループは、保健上の短期的な懸念に対応するだけでなく、経済の再開、雇用・サービスの再建、持続可能な回復に向けた取り組みも支援しています。多くの援助受入国が公的セクターの債務を積極的に開示することにより、透明性を向上させ、投資先としての魅力を高めてきました。世界銀行は最脆弱国が債務の持続可能性と透明性について自らのレベルを評価できるよう支援しています。いずれも開発成果を向上させるために不可欠な要素だからです。

世界銀行グループは、社会的セーフティネットの拡大を支援しています。これは生命に関わる重要な働きかけであり、例えば、現金を対面又は電子的な手段で給付するプロジェクトは、政府が最脆弱層を効率的に支援できるようにするためのものです。また、コストが高く環境に有害な燃料への補助金の撤廃又は別の補助金への転換、食品や医療品に対する貿易障壁の削減を各国政府に呼びかけています。

2020年度、IBRDの純承認額は前年度を上回る280億ドルとなり、実行額は堅調な水準を維持しました。IDAの純承認額は前年比39%増の304億ドルでした。3月に承認されたIDA第19次増資（IDA19）においては、76の最貧国に対する今後3年間の支援の原資として820億ドルを

確保しました。この資金は、脆弱性・紛争・暴力（FCV）の影響下にある国々への支援を拡大し、債務の透明性と持続可能な借入れを強化するために活用されます。

この一年間、世界銀行の職員とマネジメントは各国のプログラムに協動的に取り組み、質の高い知識をプロジェクトや開発政策に積極的に活用してきました。また、現地事務所で働く職員を増員し、支援の現場との距離縮小を図っています。特にアフリカ地域については、2021年度から2人の副総裁が西・中央アフリカ地域総局と東・南アフリカ地域総局をそれぞれ担当することとし、支援をさらに強化する予定です。また、専務理事兼最高財務責任者（CFO）にアンシュラ・カント、開発政策・パートナーシップ担当の専務理事にマリ・パンゲストゥ、MIGA長官に俣野弘、そしてクリスタリナ・ゲオルギエバがIMFの専務理事に就任したことを受け、業務統括担当の専務理事にアクセル・ヴァン・トロツェンバークをそれぞれ任命したことで、合計4名の新たなシニア・リーダーが加わりました。この1年間に、他にも12人の副総裁の就任と異動がありました。この強力な幹部のチームは、世界で最も効果的な開発機関を目指して、意欲的かつ献身的な職員と力を合わせ、高い適応力と強靭性を備えたビジネス・モデルを通じ、全ての国・地域が高い開発成果を達成できるよう支援しています。

10月の年次総会では、学習貧困（簡単な物語を読解できない10歳児の比率）を追跡する新たな指標が発表されました。学習貧困の削減には包括的な改革が不可欠ですが、その結果として子供たちが可能性を十分に発揮できる大人になるための技能を習得することは、開発にとって決定的に重要です。

世界銀行グループは、途上国の人々、特に女性や脆弱層が低コストの金融取引を利用できるよう新しいデジタル・テクノロジーの導入も支援しています。デジタル・テクノロジーやインターネットの普及は、女性の経済的可能性を最大限に引き出すための重要なステップです。世界銀行内に設置された女性起業家資金イニシアティブ（We-Fi）は、各国が女性の活躍を阻んでいる規制・法律面の障害を撤廃し、

成功に必要な資金、市場、ネットワークへのアクセスを提供できるよう支援しています。その他、コミュニティにおける女性の発言権と決定権を強化すること、女兒が学校で効果的かつ安全に学習できるようにすること、質の高い保健医療を母子に提供することにも力を注いでいます。

世界銀行グループは、雇用創出と経済成長の要となる民間セクターの強化も支援しています。2020年度、IFCの長期投融資承認額は前年度を上回る220億ドルでした。この内、110億ドルは自己勘定分、残る110億ドルは民間セクター等から動員した資金です。その他、IFCの短期融資は65億ドルに上りました。MIGAの承認額は総額40億ドル、平均的なプロジェクトの規模は8,400万ドルでした。MIGAのサービス、職員配置、川上段階の取組みは、IDA適格国やFCVの影響下にある国々の小規模プロジェクトに重点を置いているなど、世界銀行グループの新型コロナウイルス感染症対応を推進するものです。

こうした成果は職員の懸命な努力と、感染症の流行の中、円滑に進められた在宅勤務への移行なしには実現しなかったでしょう。職員はあらゆる国やレベルでの活動を通じて、各国の喫緊のニーズを満たすソリューションを引き続き提供してきました。困難な状況にもかかわらず、変化に柔軟に対応し、献身的に職務に当たっている職員に心から感謝します。

世界銀行は、感染症の世界的流行と深刻な景気後退に取り組む途上国の人々が危機を乗り越え、持続可能かつ包摂的な回復を達成し、より良い未来を実現できるように、今後も各国が必要とする支援や援助を提供してまいります。



デイビッド・マルパス
世界銀行グループ総裁
兼理事会議長

理事会からの メッセージ

我々は現在、世界銀行が設立された1944年以降、最も困難な局面の一つに直面しています。新型コロナウイルス感染症の世界的流行は、全ての国と社会の構成要素に影響を与え、数百万人の命、あらゆる規模の企業、そして今日の世界経済に深刻な影響を与えています。この状況に対応するため、世界銀行グループは一丸となって、包括的な措置を迅速に講じました。この前例のない世界規模の保健、社会、経済危機に立ち向かうべく、粘り強く資金動員を進めている職員に心から感謝します。世界銀行グループは、極度の貧困撲滅と繁栄の共有促進という2大目標の達成に向けて、また新型コロナウイルス感染症危機への対応戦略をまとめた「Saving Lives, Scaling-up Impact and Getting Back on Track（仮題：人命を救い、成果を高め、回復を軌道に乗せるための取組み）」を指針として、15カ月間に最大1,600億ドルを投じて、各国の危機対応を支援することを表

明しました。2020年度の時点で、支援はすでに100カ国以上で始まっています。この資金は、途上国の強靱性と包摂性を高め、変革をもたらす投資を促進することにより、各国が混乱を乗り越え、さらなる強靱性を獲得する道を開くために役立つでしょう。回復と開発を再び持続可能な形で前進させるためには、政府や官民両セクターのパートナー、広範な関係者と協力を続けることが鍵となります。

世界銀行グループは、グループの2大目標と持続可能な開発目標（SDGs）に向けた進捗を加速するため、新たに「脆弱性・紛争・暴力（FCV）戦略」を承認しました。同戦略は、2016年の中期戦略「フォワード・ルック」と2018年の資本パッケージが順調に実施されていることを踏まえたもので、社会から疎外されている最脆弱層を重点対象として、途上国がFCVの促進要因と影響に対応し、強靱性を強化できるように、支援の有効性をさらに高めることを目指しています。

2020年度の理事会では、雇用と経済改革、移民、グローバル・バリューチェーン、デジタル・トランスフォーメーションに関する戦略・運用上の課題が議論されました。また、MIGAの引受制度と保証制度について議論を行うとともに、既存の市場の強化と新規市場の開拓にも取り組みました。さらにMIGAの新長官として俣野弘を迎えました。



DJ Nordquist、
米国



吉田正紀、
日本



Richard Hugh
Montgomery、
英国



Arnaud
Buissé、
フランス



Juergen Karl
Zattler、ドイツ



Shahid
Ashraf Tarar、
パキスタン



Louise
Levonian、
カナダ



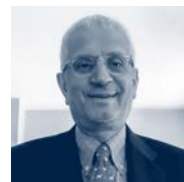
Adrián
Fernández、
ウルグアイ



Kunil Hwang、
韓国



Nathalie
Francken、
ベルギー



Merza Hussain
Hasan、クウェート
（筆頭理事）



Aparna
Subramani、
インド

組織に関しても、いくつかの重要な事項を協議しました。例えば、途上国への職員配置、開発成果の測定方法、独立した説明責任の仕組み、ガバナンスの枠組み、2020年の投票権見直し等です。この他、2021～23年度のMIGAの戦略及び事業見直し、来年度の世界銀行グループの方向性を定める2021年度予算についても議論し承認しました。

理事会は、世界銀行グループの組織と支援業務における人種間の公平・平等を徹底して重視しています。今後も多様性と包摂性に留意しながら組織を運営し、援助受入国やコミュニティを支援していく所存です。世界銀行グループが世界中で展開している開発業務やプログラムにおいて、人種や民族に配慮することは極めて重要であり、職場の多様性と包摂性を高めることはグループの基本的価値観と合致しています。こうした取組みは次の1年間においても引き続き重点分野となります。



Jean-Claude
Tchatouang、
カメルーン



Anne
Kabagambe、
ウガンダ



Elsa Agustin、
フィリピン
(代理)



Kulaya
Tantitemit、
タイ



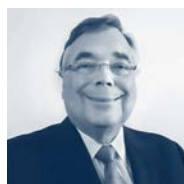
Yingming
Yang、中国



Jorge Alejandro
Chávez Presa、
メキシコ



Koen Davidse、
オランダ



Geir H.
Haarde、
アイスランド



Patrizio
Pagano、イタリア
(共同筆頭理事)



Hesham
Alogeel、
サウジアラビア



Roman
Marshavin、
ロシア連邦



Werner
Gruber、
スイス



Larai Hajara
Shuaibu、
ナイジェリア



俣野弘からの メッセージ

MIGA 長官

今日の世界経済について「1年前から大きく根本的に変わってしまった」というのはかなり控えめな表現だと言えるでしょう。

新型コロナウイルスの影響は何年にもわたり続くと言われていますが、一方でそのダメージは既に目に見える形で現れています。失業や、40%の縮小が予測される世界のFDI。さらに、約1億人が極度の貧困に陥ったと言われています。かつて強気だった世界の投資家の間には手控えムードが広がり、内向きとなったその視線は国内市場に向いています。

「MIGAの主要商品は政治的リスク保険と信用補完です。しかし、我々の役割はこれにとどまりません」

こうした不透明な状況におけるMIGAの役割は、民間投資家に航路を守るよう促すとともに、カントリーリスクの管理と軽減を支え安定性を向上させることにあります。実際、2020年度、MIGAは顧客やパートナーと連携し、民間の国際投資家に対し約40億ドルの保証を発行することで、

開発金融73億ドルを動員しました。MIGAの保証の約半数がIDA諸国（低所得国）と脆弱な環境で行われるプロジェクトに向けられ、引受額の20%強が気候変動の適応策と緩和策を支えました。この結果、約1,240万に及ぶ人々が電気を使えるようになり、年間の現地調達額は430万米ドルに達し、二酸化炭素換算で年約300万トンの排出が回避される見込みです。

MIGAの主要商品は政治的リスク保険と信用補完です。しかし、我々の役割はこれにとどまりません。世界銀行グループの加盟国である我々の加盟国との関係を生かし、MIGAはさまざまな関係の改善とプロジェクトの円滑な進捗を支援しています。

新型コロナウイルスの流行のはるか以前から、MIGAは商品の革新的な活用による新たな市場の開拓に集中して取り組んできました。そして、このパンデミックによりこれをより迅速に行う必要がありました。その中核的取組みの一環として、単一の大口のエクスポートを伴う取引からシフトし、現地に開発成果をもたらすより大きな可能性を秘めた、困難な環境での小規模で高リスクのプロジェクトを一段と重視するようになりました。

バーゼルをはじめとする監督制度に参加する国際金融機関に対し資本要件の緩和を行いました。これらは途上国・地域での資金供給能力を抑制しかねません。この結果、信用の流れは確保されており、零細・中小企業（MSMEs）は困難な局面のなかでも流動性を引き続き保持しています。

新型コロナウイルスの蔓延を受け、MIGA は世界銀行及び IFC と連携し迅速に対応しました。4 月初めには 65 億ドルのファーストトラック・ファシリティを立ち上げました。これは、MIGA の能力を至急必要な医療機器の購入に振り向けるとともに、MSMEs、企業や個人事業主の運転資金を提供し、各国政府の短期の資金調達を支えることを目的としており、以下に挙げる 4 つのメカニズムを駆使しています。

- 各国政府及び関連機関が、非譲許的な条件で借入を行い早急に必要な医療機器や保護具、薬品やサービスを購入することができるよう信用補完を提供
- 商業銀行及び金融機関向けのリスクヘッジソリューション。これにより、金融機関の低所得国・中所得国における子会社を通じた融資の継続が可能に
- 政府及び関連機関を対象とした信用補完。流動性が制約されるなか、経済回復を後押しするプロジェクトやプログラムの資金調達のために、信用市場へのアクセスが必要な政府及び政府系企業を支援
- 貿易金融の支援。特に低所得国・脆弱国での、グローバル・サプライ・チェーンの物流の維持を目指す

MIGA が支援したプロジェクトのひとつがパナマの国内銀行への融資で、これは、COVID-19 の危機に起因する流動性の制約に対応するために行いました。また、サブサハラ・アフリカの複数の銀行の法定準備金に保証を提供しました。MIGA は 6 月末までに、COVID-19 対策の一環として、総引受額の半分以上に相当する 21 億米ドルの保証を提供しました。

今後の展望について述べますと、今年度理事会に提出した 2021 ～ 2023 年度の戦略が、MIGA の活動とその成果の向上に資する数々の新たな機会への挑戦に関する方針を示しています。たとえば、支援対象を貿易金融の保証まで拡大することに加え、MIGA の保証対象通貨の拡大、国内投資家との連携、資本市場への支援、そして IFC や他の国際開発金融機関（MDBs）及び輸出信用機関（ECAs）との連携の拡大といった革新的な手段を検討しています。

より全般的には、年間合計総引受額を平均 55 億米ドル～60 億米ドルまで増額することを目標に掲げるなかで、IDA 諸国や脆弱国・紛争国（FCS）でのプロジェクトへの支援により大きな割合を振り向けています。これは、世界で最も困難な環境にある国々への年間の保証の割合が、25%（2017 年度～2019 年度）から 30～33%（2021 年度～2023 年度）まで拡大することを意味します。さらに、世界銀行グループの目標と足並みを揃え、2021 年度～2025 年度の年間保証額の少なくとも 35% を気候変動ファイナンスへの支援に振り分けることを目指しています。

我々は厳しい状況にありますが、その一方で、顧客の皆様との連携を通じ、全ての人ひとりひとりがこの難局を乗り越えることができるよう支援しているという事実に勇気づけられております。私は、MIGA は今後も迷うことなく世界銀行グループの使命を全うするために前進していくと確信しています。

MIGA の職員を大変誇りに思うとともに、顧客及び理事会の皆様にご心より御礼申し上げます。皆様のご尽力によりこの不透明かつ困難な環境においても重要な目標を達成することができました。目の前には多くの問題が立ちふさがっています。しかし我々にはこれに真正面から立ち向かうためのツールとリソース、そして強い意志があるのです。



侯野弘
多数国間投資保証機関長官

新型コロナウイルス感染症対策への支援

2020年初頭に拡大した新型コロナウイルス感染症の世界的流行は、各国の保健システムに深刻な課題を突きつけ、広範囲にわたる経済活動の停止、学校の閉鎖や企業の休業、失業といった事態を引き起こしました。その結果、ほぼ全ての国が過去に類を見ない規模の景気後退に直面しています。

これに対し世界銀行グループは、国際社会の中心となって対応に当たっています。3月の理事会では、途上国における緊急の保健ニーズへの対応と景気回復の促進を支援する新しいファストトラック・ファシリティが承認されました。4月、世界銀行は同ファシリティの下で、保健システム、疾病監視、公衆衛生に対する支援を強化するための第1弾となるプロジェクトに着手しました。IFCとMIGAは、経済への打撃を和らげるため、企業が事業を継続し雇用を維持できるように、資金の提供と資本アクセスの拡大に迅速に着手しました。





ナイジェリア：

強靱な回復を支援する活動の一環として、IFC を通じて国内の銀行に **5,000 万ドル** を融資。中小企業が事業を継続し、雇用を維持できるように、中小企業への貸付枠の拡大を支援。



モンゴル：

救急医療に携わる医師、看護師、医療従事者向けの研修、医療・検査用機器・消耗品の調達、保健医療施設の修繕、国の保健危機対応能力の強化に対する支援として、世界銀行から **2,700 万ドル** を提供。



キルギス共和国：

医療・検査用品、集中治療室 (ICU) 用機器、病院向け災害準備金等、救急チーム、病院、検査施設の機能強化に対する支援として、世界銀行から **1,200 万ドル** を提供。



コロンビア：

感染症の世界的流行により、融資へのアクセスが制約されていることから、零細・中小企業が短期資金を確保できるように MIGA を通じて **3 億 8,500 万ドル** の保証を提供。



イエメン：

世界保健機関 (WHO) と連携し、感染の拡大抑制と感染症関連リスクの緩和に対する支援として、世界銀行から **2,700 万ドル** を提供。



インド：

保健医療サービスの強化、中小企業の支援、最貧困層・最脆弱層 (特に女性と移住労働者) への社会的保護の拡大に対して、世界銀行から **28 億ドル** を提供。

世界銀行グループは、新型コロナウイルス感染症に対する各国の対応を支援するため、新規プロジェクトの立上げや既存プロジェクトの再構築、災害リスク繰延引出オプション (Cat DDO) の発動、再構築と回復を促進する民間セクターの持続可能なソリューションを通じて、2021 年 6 月までの 15 カ月間に最大 1,600 億ドルの資金を支援する予定です。新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、2020 年には新たに約 1 億人が極度の貧困に陥る恐れがあります。FCV 関連の課題を抱えている国は、この世界的流行により保健、社会、経済面で特に大きな影響を受けやすいと見られます。こうした国々に対する支援は、予防への投資、危機的状況への取組みの継続、人的資本の保護、最脆弱層及び不利な立場にある人々 (避難を強いられた人々を含む) への対応に重点を置いています。サプライチェーンの混乱と輸出制限によって食料供給が不安定になっていることから、最貧国・最脆弱国は食料不足のリスクにも直面しています。この問題に対応するため、世界銀行は各国に食料サプライチェーンの維持と安全な運用を求めると共に、感染症の世界的流行による食品購買力への影響を各国がモニタリングできるよう支援しました。さらに、最貧困層・最脆弱層を対象とした強力な社会的保護プログラムの実施を呼びかけ、生計の保護に加え、手頃な価格での基本的食料へのアクセスの重要性を訴えました。

世界銀行は、新型コロナウイルス感染症の世界的流行がもたらした広範な影響について、地域別の経済報告や世界規模の送金額減少に関する報告書、教育や子供の将来に対するショックについての政策ノート等で分析を行っています。しかし、短期的な危機が過ぎ去った後も途上国には、その影響を緩和し、長期的な成長を加速するための支援が長期にわたって必要となります。そこで世界銀行は、ガバナンスの強化とビジネス環境の改善、金融市場の混乱への対応、人的資本分野の成果向上に向けた教育と保健への投資、債務の透明性向上による新規投資の呼び込み、貧困層への現金給付によるセーフティネットの拡大、エネルギー価格政策の見直し、世界的流行の収束後に備えて資本と労働力を迅速に調整するための改革等、様々な政策を提言しました。

今回の緊急事態においては、民間セクターの支援も不可欠です。IFC は、世界銀行グループによる支援の一部として 2021 年 6 月までに 470 億ドルを提供する計画であり、まずは危機的状況にある企業が事業を継続し、雇用を維持できるように、80 億ドルを提供します。同パッケージは、

新型コロナウイルス感染症の世界的流行の影響を受けやすいインフラ、製造業、農業、サービス業の既存顧客を支援するだけでなく、金融機関の流動性を高めることで、輸出入企業に貿易金融を提供し、融資枠の拡大を通じて企業が運転資金を確保できるよう支援します。

IFCは第2段階として、既存及び新規顧客を支援する準備も進めています。例えばグローバル・ヘルス・プラットフォームは、マスクや人工呼吸器、検査キット、将来的にはワクチン等の重要な保健医療品へのアクセスを改善するため、メーカーや主要原料の供給業者、サービス提供事業者に対し、途上国への製品・サービス提供のための資金を提供します。IFCは自己勘定分の20億ドルに加え、民間パートナーからも20億ドルを動員する予定です。また、企業や金融機関が回復軌道に乗ることができるように、事業の再編や資本構成の変更も支援する予定です。

MIGAも65億ドルのファストトラック・ファシリティを立ち上げ、新型コロナウイルス感染症の世界的流行に対応している低・中所得国の民間投資家及び金融機関を支えています。同ファシリティは、保証提供手続きの合理化と迅速化に加えて、各国政府及び関連機関に対し、直ちに必要な医療機器や保護具、薬品、サービスを購入するための信用補完や、経済の回復に必要な資金を提供するものです。その他、商業銀行や金融機関向けのリスクヘッジ・ソリューション、現地銀行向けの貿易金融支援も提供されます。

貿易金融に対するIFCとMIGAの支援は、グローバル・サプライチェーン、特に必須医療品の生産・流通を確保するという世界銀行グループ全体の取組みを補完するものです。世界銀行グループは、途上国政府に代わって供給業者に働きかけ、各国がこうした物資を入手できるよう迅速に行動しました。また、各国政府には保護貿易主義の施策を控えるよう呼びかけました。こうした施策は必要な物資の供給量を世界規模で減少させるだけでなく、価格上昇を誘発し、途上国が必要な物資の確保を困難にする懸念があります。

世界銀行は、IDA借入国が感染症の流行が引き起こした課題に取り組むための流動性を確保し、資金ニーズを把握できるよう、国際通貨基金（IMF）と共同で二国間債務の

返済猶予を呼びかけました。2020年4月15日、G20諸国の首脳はこの呼びかけに応じ、5月1日付けで貧困国の債務返済を一時停止するという債務救済措置に合意しました。バーチャル形式で開催された世界銀行グループ・IMFの春季会合では、デイビッド・マルパス総裁が開発委員会に対する声明の中で、「債務救済は、貧困国の人々に実質的な利益をもたらし得る、強力で即効性のある措置だ。」と述べ、この歴史的偉業をたたえました。

2020年6月、理事会は新型コロナウイルス感染症の世界的流行に対する対応を詳細に記した戦略文書「Saving Lives, Scaling-up Impact, and Getting Back on Track（仮題：人命を救い、成果を高め、回復を軌道に乗せるための取組み）」を承認しました。同文書は、世界銀行グループの危機対応を「緊急支援」、「再構築」、「強靱な回復」という3段階に分けて説明しています。まず「緊急支援」では、感染症が保健、社会、経済にもたらした短期的な影響に対応するための支援を提供します。各国が感染症の拡大を抑制し、経済活動の再開へと向かう「再構築」では、将来の危機に備えた保健システムの強化、教育、雇用、保健医療へのアクセス拡大による生活と生計の立て直し、企業と金融機関の再建が支援の重点分野となります。「強靱な回復」では、感染症の世界的流行によって変容した世界で、各国がより持続可能かつ包摂的で強靱性を備えた未来を構築できるよう支援します。

世界銀行グループは、この危機に徹底して対応するため、インパクトの最大化と財務基盤の維持に注力しながら、今後も前例のない規模と速度で各国を支援していく予定です。グループ内の連携を強化し、感染症の世界的流行と戦うため、引き続き官民連携の適正なバランスを探り、援助受入国やパートナーと協力していきます。

各国で展開されていた開発援助は、過去に例のない規模の今回の危機に対応するために軌道修正を迫られました。世界銀行グループの長期的な使命は変わっていません。極度の貧困撲滅と繁栄の共有促進という目標を持続可能な形で達成することは今も世界銀行グループの使命であり、そのために、今後は感染症の世界的流行からの強靱な回復と、さらなる強靱性の獲得に注力していく所存です。

世界銀行 グループの各機関

世界銀行グループは、途上国に資金と知識を提供する世界最大規模の援助機関であり、貧困の撲滅、繁栄の共有促進、持続可能な成長と開発の推進という目的を共有する5つの機関で構成されています。

IBRD

国際復興開発銀行 (IBRD) :
中所得国及び信用力のある低所得国の政府を対象に貸出を提供

ICSID

投資紛争解決国際センター (ICSID) : 国際投資紛争の調停と仲裁を行う場を提供



IDA

国際開発協会 (IDA) : 最貧国の政府を対象に極めて譲許的な条件で資金を提供

IFC

国際金融公社 (IFC) : 途上国の民間セクター向け投資を促進するための融資、直接投資、助言サービスを提供

MIGA

多数国間投資保証機関 (MIGA) : 新興国への対外直接投資 (FDI) を促進するために投資家や貸手に政治的リスク保証や信用補完を提供

世界銀行グループによる支援

世界銀行グループの承認額、実行額、総引受額

年度別単位: 100万ドル	2016	2017	2018	2019	2020
世界銀行グループ					
承認額 ^a	64,185	61,783	66,868	62,341	77,078
実行額 ^b	49,039	43,853	45,724	49,395	54,367
IBRD					
承認額 ^c	29,729	22,611	23,002	23,191	27,976
実行額	22,532	17,861	17,389	20,182	20,238
IDA					
承認額 ^c	16,171	19,513 ^d	24,010 ^e	21,932 ^e	30,365^e
実行額	13,191	12,718 ^d	14,383	17,549	21,179^e
IFC					
承認額 ^f	11,117	11,854	11,629	8,920	11,135
実行額	9,953	10,355	11,149	9,074	10,518
MIGA					
総引受額	4,258	4,842	5,251	5,548	3,961
援助受入国実施信託基金					
承認額	2,910	2,962	2,976	2,749	3,641
実行額	3,363	2,919	2,803	2,590	2,433

a. IBRD、IDA、IFC、援助受入国実施信託基金（RETF）の承認額、並びに MIGA の総引受額を含む。RETF の承認額は、援助受入国実施グラントの全てを含んでおり、信託基金による活動の一部のみを反映する世界銀行グループのコーポレート・スコアカード記載のコミットメント総額とは異なる。

b. IBRD、IDA、IFC、RETF の支援実行額を含む。

c. 同年度中に承認された契約終了・解除の全額を控除した後の金額。

d. パンデミック緊急ファシリティ（PEF）のグラント 5,000 万ドルの承認額・実行額を含む。

e. IFC-MIGA 民間セクター投資枠（PSW）の活動を除く承認額と実行額。

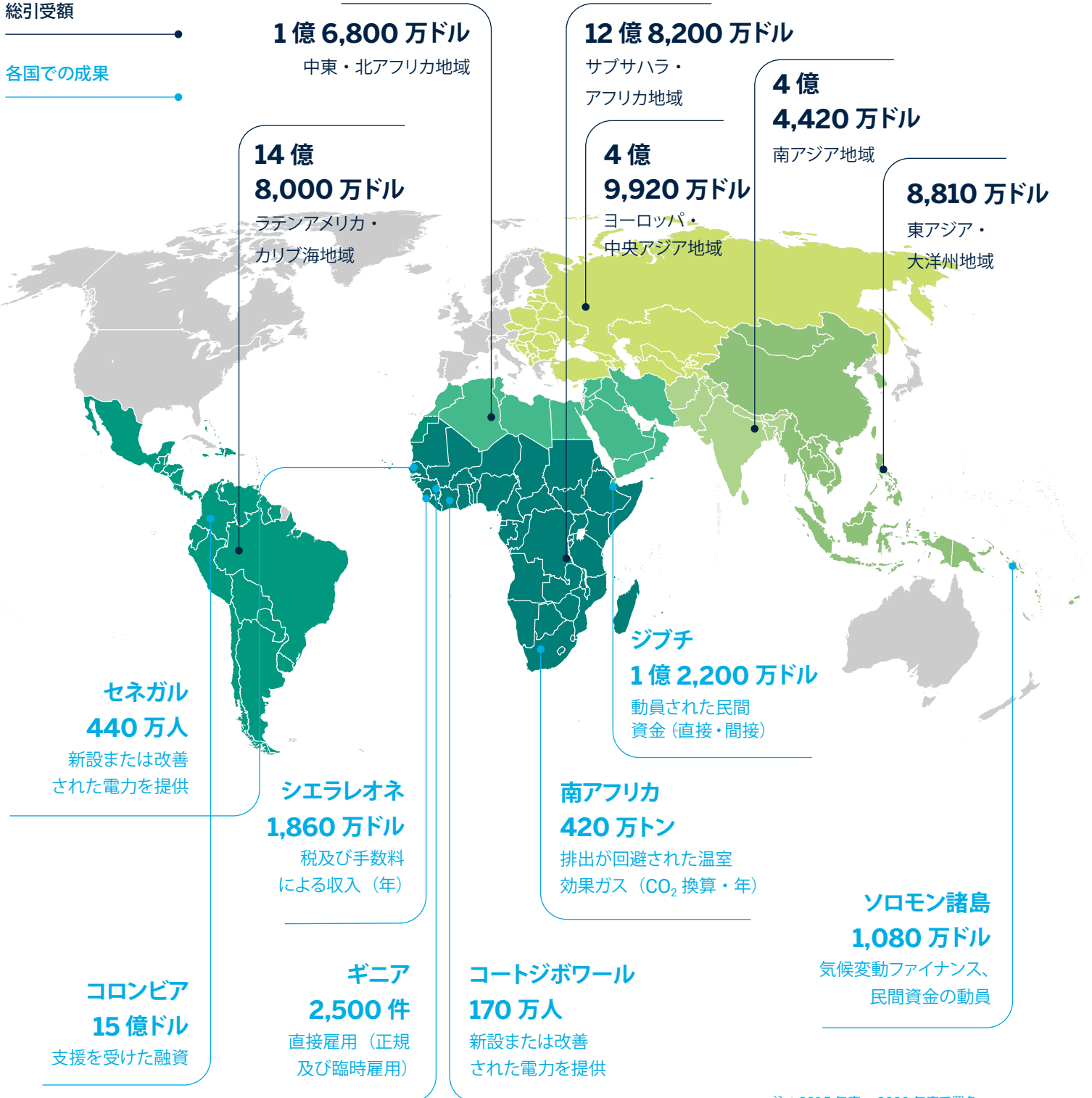
f. IFC 自己勘定の長期コミットメント。短期融資や他の投資家を通じて動員した資金を除く。

世界で活動を展開する MIGA- 各国での成果

39億6,140万ドル
2020年度総引受額

総引受額

各国での成果



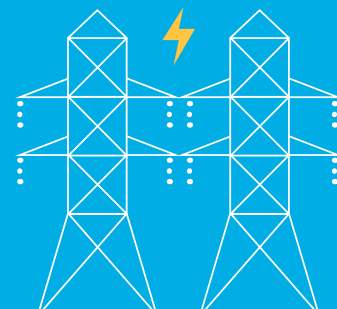
注：2015年度～2020年度で署名・締結したプロジェクトのデータ

MIGA の期待されるプロジェクトの 開発成果（2020 年度締結分）

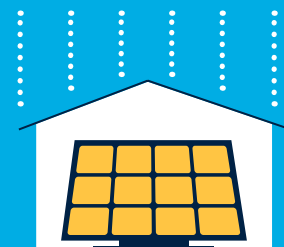
動員される資金
73 億ドル



発電能力の拡大
5,547 GWhs（年）



新設または改善され
た電力の供給を
受ける人
1,240 万人



現地調達財（年）
430 万ドル



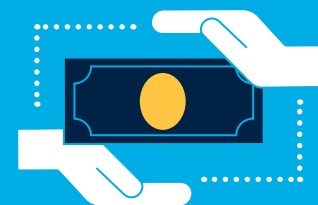
回避される温室効果ガスの
排出量（CO₂ 換算・年）
300 万トン



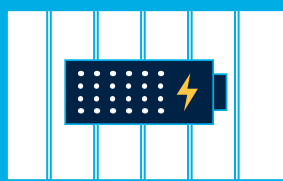
援助受入国に支払
われる税及び手数料
1 億 9,700 万ドル（年）



支援を受ける融資
55 億ドル



電力一既存
発電容量
1,226 メガワット

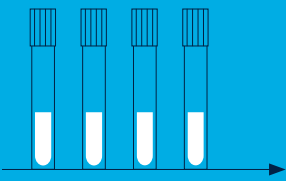


MIGA COVID-19 ファーストトラック・ ファシリティ

2020年4月、MIGAは、COVID-19の流行への対応に取り組む途上国と民間セクターを支援するため、65億米ドルのファシリティを立ち上げました。MIGAの同危機への対応は多方面にわたり、以下のパンデミックの3つの段階をカバーすることを意図しています。(1) 初動対応で、公共部門と金融部門の支援を中心に緊急のニーズに早急に対応します。(2) 回復段階では、実物部門と民間企業を中心に、継続する経済活動の回復を短期・中期的に支援します。(3) 公共部門・民間部門に広く投資し長期的な頑健性の構築を目指します。2020年8月現在、同危機の新興市場と途上国への影響の軽減を図るプロジェクトに対しMIGAが拠出した資金は26億米ドルとなっています。また、COVID-19に特化した多くのプロジェクトが現在準備段階にありこれらは来年度に締結される予定です。



MIGA・COVID-19 ファーストトラック・ファシリティの主な柱



第1の柱

COVID-19 関連の医薬品・サービスの調達

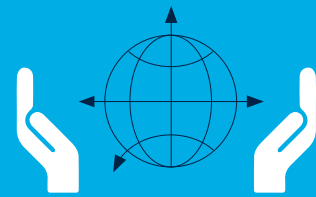
- 医薬品とサービス（COVID-19 検査キット、医療用ガウン、マスク、人工呼吸器、医薬品など）の購入について援助受入国政府を支援



第2の柱

COVID-19 の危機の最中での、経済への負の影響への対応

- 信用補完プログラム—危機が続くなかで、SMEs、企業、個人事業主への短期資金や運転資金の支援で、適格と判断される国、地方、国営企業のレベルで政府を支援
- 資本最適化—中央銀行に預託する法定準備金のために確保されていたリスク・アセットを解放することで、援助受入国で融資を行えるよう金融機関を支援



第3の柱

ポスト COVID-19—貿易金融の支援

- IDA と FCS 諸国を中心に、不可欠な一次産品を含めたグローバル・サプライ・チェーンの物流とサービスの流れの強化に向け貿易金融を支援

2020 年度 MIGA COVID-19 ファーストトラック・ ファシリティ・プロジェクト



アフリカ
(複数国)

MIGA は 3 億 5,900 万ユーロの保証を、東部・南部アフリカ貿易開発銀行 (Eastern and Southern African Trade and Development Bank: TDB) に対して発行しました。同銀行は 22 国が参加する地域開発銀行です。この MIGA の保証は、同行の長期的な資金供給源の多様化を促進し、不可欠な食料品と燃料の輸入により重点をおけるよう支援するとともに、ストラクチャード・トレード・ファイナンスを活用した、COVID-19 関連の備品、医療施設の建設資材の輸入を支援します。



ボツワナ、エスワティニ、
ガーナ、レソト、モザンビーク、
ナイジェリア、ザンビア

MIGA の COVID-19 対応策の第 2 の柱のもと、ファーストランド銀行 (FirstRand Limited) に最大 2 億 3,500 万米ドルの保証を提供しました。この保証により、資本の有効活用が可能となり、同行の 7 子会社が、危機を乗り越え事業を継続するとともに、長期的成長の基礎を築くことができます。



アルバニア

このプロジェクトでは、新型コロナウイルスの大流行による極めて厳しい局面において、アルファ銀行アルバニア (Alpha Bank Albania) の融資業務を支援します。4,750 万ユーロの MIGA による保証の大半が、アルバニアの成長の要で主な雇用の創出源である MSMEs の支援に活用されます。



アルゼンチン

MIGA は、アルゼンチンの信用供与を支えるため、サンタンデール (Santander) 銀行のサンタンデール・リオ銀行 (Santander Río) への投資の保証内容を拡大しました。MIGA の保証により同行の能力を有効に活用することで、複数の政府主導の COVID-19 対策や SME 向けプログラムといった信用供給支援を継続することができます。MIGA の支援が極度のストレス下において極めて重要な役割を果たすことが期待されています。



コロンビア

MIGA が保証する融資は、COVID-19 対策である、企業や MSMEs への緊急流動性支援を目的とした同国政府の複数のイニシアティブの資金源として、コロンビア貿易銀行 (Bancoldex) が活用します。MIGA が保証する融資は、「コロンビア・レスポンド (Colombia Responde)」や「コロンビア・レスポンド・パラ・トドス (Colombia Responde para Todos)」といった、政府のプログラムの資金源として活用されます。



ボスニア・ヘルツェゴビナ、
コソボ、モンテネグロ、
北マケドニア、セルビア

MIGA の保証により、新リュブリャナ銀行 (Nova Ljubljanska banka d.d., Ljubljana's NLB's) のポートフォリオにかかる COVID-19 に伴う資金引き上げの圧力が軽減されます。この保証により資本が解放され、東欧の子会社 6 行を通じて喫緊の資金ニーズに対する融資を行うことができます。



パナマ

ドル化を進めたパナマですが、中央銀行が存在していないことから、金融政策を用い経済ショックに対応することは困難です。MIGA が保証した融資が、Caja de Ahorros 銀行による、COVID-19 がもたらした経済危機への対応策を資金面から支援します。借入金は SMEs などの企業への流動性の供給に使われ、融資先のレジリエンスを強化しパナマの経済回復を後押しします。

主なプロジェクト

2020年度のMIGAの
プロジェクトの成果



ジブチ：画期的な 風力エネルギー プロジェクト

ジブチ・ウィンド社は
ジブチの電力の
輸入依存度を改善
し同国の再生可能
エネルギーへの移行を
支援します。

MIGA は、9,160 万米ドルの保証をジブチ・ウィンド社 (Djibouti Wind Company Ltd) に提供し、ジブチ初となる発電所規模の風力プロジェクトを支援しました。この MIGA の保証は、グベの 58.9 メガワット級の風力発電所の、設計、開発、建設、運営、及び維持に加え、アルタ地域 (アッサル湖とジブチ市の間) の相互接続のための設備も支援しています。この保証は、同プロジェクトにかかるこれまでの投資と今後の収入を最長 20 年間・最大 90% をカバーし、為替交換制限や送金の制限、収用、契約不履行そして戦争や内乱に起因する損失から守ります。

この同国初の独立系発電事業者 (IPP) のプロジェクトにより、大きなデモンストレーション効果が期待できます。MIGA の同プロジェクトへの支援は、競争力のある料金の維持と温室効果ガス (GHG) の排出量の削減だけでなく、同国のエネルギー安全保障の向上と再生可能エネルギーへの移行を支えます。発電所の稼働後は CO₂ 換算で年間約 15 万 4,500 トンの排出が回避されることとなります。また、民間セクターの信認を改善し IDA 適格国であり FCS¹ 国であるジブチへの、海外からの民間投資の動員を拡大するという目標も等しく重要です。このプロジェクトでは、IDA 第 18 次増資民間セクター投資枠 (Private Sector Window: PSW) の MIGA 保証ファシリティを利用し一次損失 4,400 万米ドルを共有しています。

¹ 世界銀行グループの 2017 年度～2019 年度 FCS 国リスト (Harmonized List of Fragile Situations)

ソロモン諸島： クリーンな 発電への支援

ソロモン諸島は、離島であることとその国土の規模を主な理由に難しいエネルギー問題を抱えています。多くの島々に存在するコミュニティの電力へのアクセスにはばらつきがあり、たとえば、首都ホニアラでは住民の66%が電気を利用できますが、他の地域では10%未満にとどまっています。さらに、同国で利用されている発電機は老朽化が進みディーゼルは輸入に大きく依存しているなど、電力の供給は不安定でしかも料金が高くなっています。MIGAは、ティナ川水力発電所事業（Tina River Hydropower Development Project）への投資を支え、エネルギーの自立の向上を促しています。MIGAは、韓国水資源公社

（Korea Water Resources Corporation）と現代エンジニアリング（Hyundai Engineering Co. Ltd）に対し、収用、契約不履行、戦争及び内乱といったリスクを最長20年間カバーする1,409万米ドルの保証を発行しました。ホニアラの南東20キロに位置する15メガワット級のティナ川水力発電所を対象とした同プロジェクトにより、この発電所の耐用期間を通しCO2換算で130万トン排出量を削減すると期待されています。これはIDA適格国でありFCS国であるソロモン諸島でのMIGAの初のプロジェクトで、PSWの一次損失保証で510万米ドルを共有するなど同制度を大いに活用しています。

多くの島々に存在するコミュニティの電力へのアクセスにはばらつきがあり、たとえば、首都ホニアラでは住民の66%が電気を利用できますが、他の地域では10%未満にとどまっています。



アブサ・グループと
ファーストランド銀行：
アフリカで銀行の
頑健性を強化する

MIGA は、アフリカ全土で事業を展開する銀行 2 行への投資を支え、COVID-19 が蔓延するなかで、域内の融資の拡充と銀行のレジリエンシーの強化を支援しています。



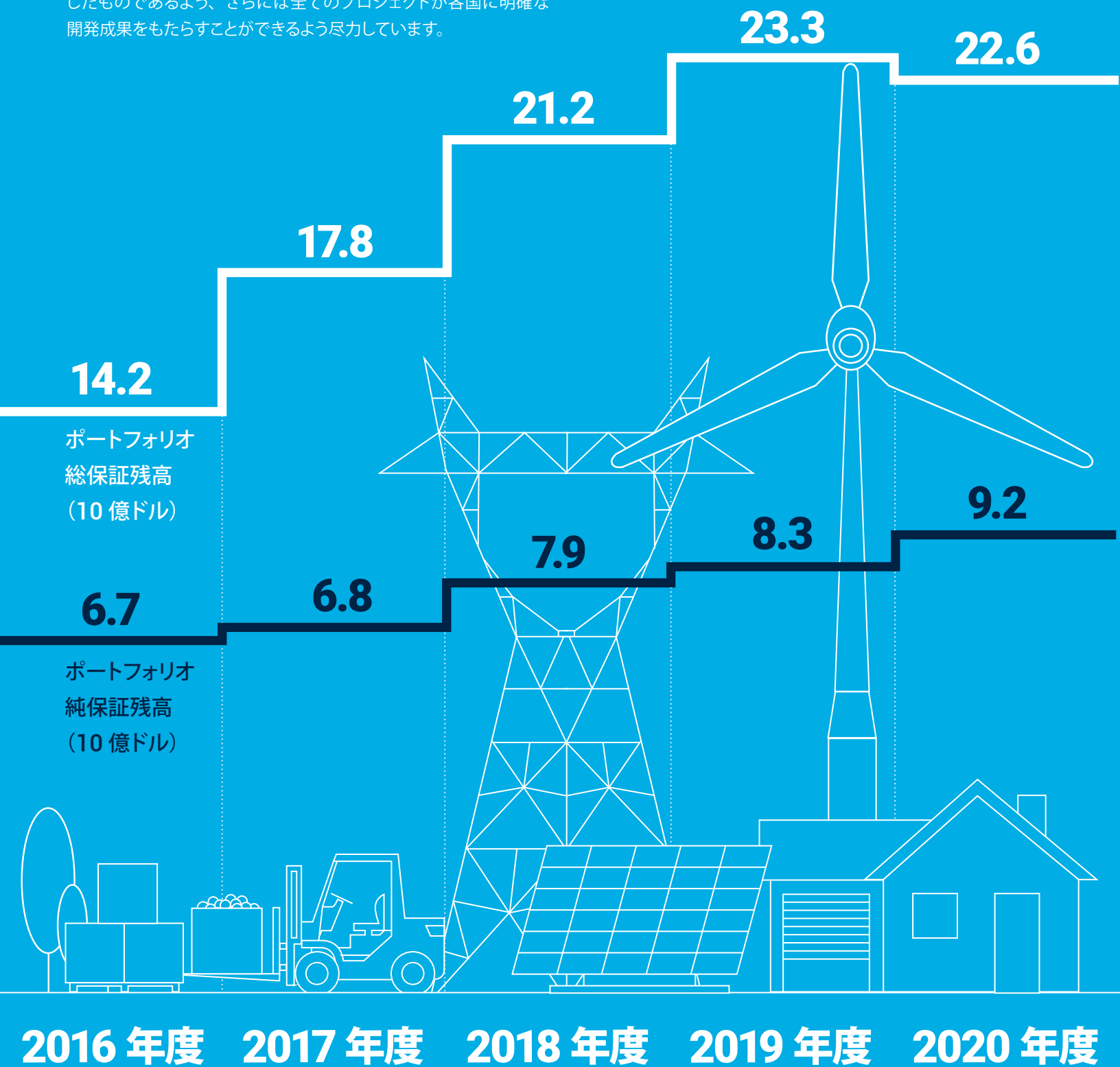
2020 年度、MIGA は、アフリカ全土で事業を展開する銀行 2 行への投資を支え、COVID-19 が蔓延するなかで、域内の融資の拡充と銀行のレジリエンシーの強化を支援しています。MIGA は、南アフリカのアブサ・グループ (Absa Group Ltd) に 4 億 9,700 万ドルの保証を発行し、ガーナ、ケニア、モーリシャス、モザンビーク、セーシェル、ウガンダ、及びザンビアのアフリカ 7 カ国での融資の拡大を支援しています。その融資の主な焦点となるのが、企業や SMEs、さらには気候変動とのコベネフィットの可能性を秘

めたプロジェクトへの資金供給の拡大です。また、MIGA は、COVID-19 ファーストトラック・ファシリティの一環で、ファーストランド銀行に保証を発行しました。これは、ボツワナ、エスワティニ、ガーナ、レソト、モザンビーク、ナイジェリア、そしてザンビアにある同行の子会社の支援を目的としています。この保証により資本が解放され、同行の子会社は業務を継続しパンデミックに起因するさまざまな困難を乗り切ることが出来ます。

MIGA の業務および運営の概要

MIGA は、世界銀行グループの使命である極度の貧困の撲滅と繁栄の共有の促進を支えるため、途上国への国際投資の誘引に取り組んでいます。COVID-19 の大流行により途上国への FDI（対外直接投資）が大きく落ち込むなか、今年度も MIGA は引き続き途上国への民間投資の促進に注力しました。MIGA は、MIGA の保証が各プロジェクト、各スポンサーそれぞれの独自のニーズに適したものであるよう、さらには全てのプロジェクトが各国に明確な開発成果をもたらすことができるよう尽力しています。

2020 年度、MIGA は約 40 億米ドルの新規保証を提供し、47 件のプロジェクトを支援しました。MIGA が支援したプロジェクトの 70% が、IDA 適格国、脆弱国・紛争国（FCS）、そして気候変動という、MIGA の戦略的優先分野の少なくとも一つを対象としていました。総保証残高は 226 億米ドル、純保証残高は 92 億米ドルでした。



MIGA の戦略的 優先分野

IDA と FCS

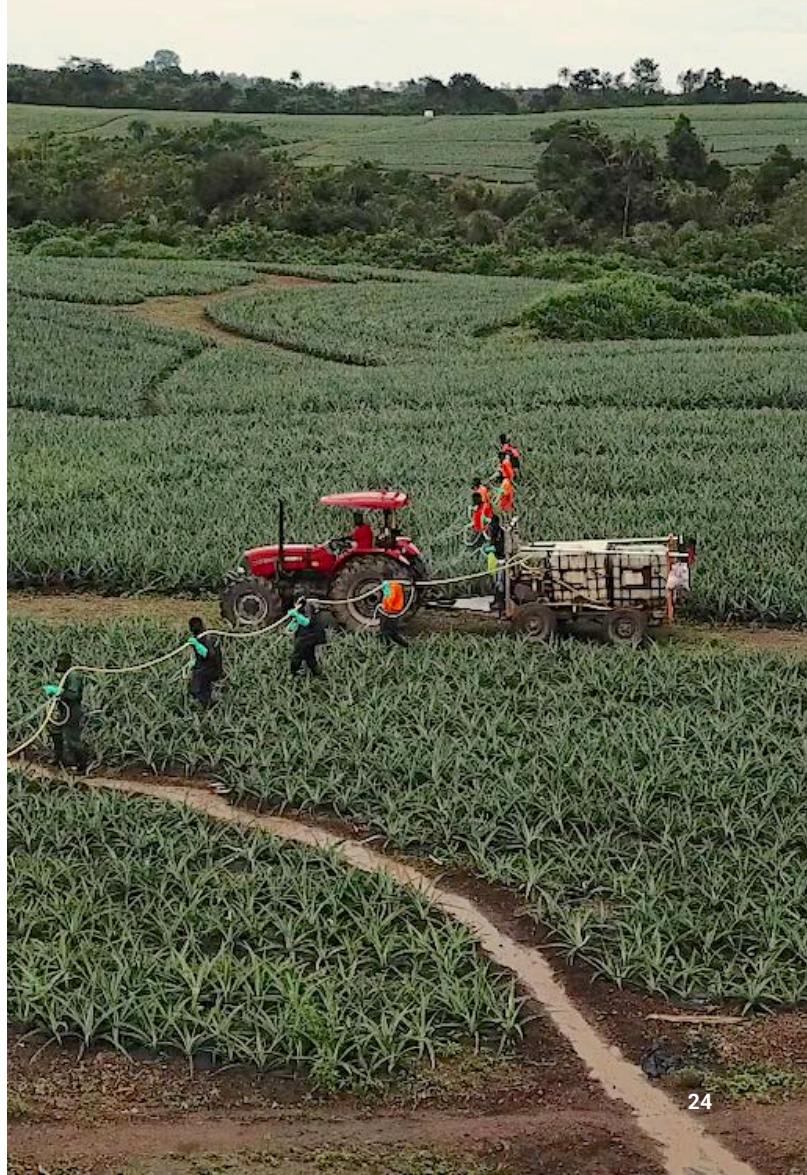
MIGA は引き続き、IDA 適格国と FCS 国でより優れた成果をもたらすことにコミットしています。現在、推定で世界の極度の貧困（1日当たり1.90ドル以下）のなかで暮らす人々の63%がIDA諸国で暮らしていますが、この数字はさらに増える見込みです。この開発の試練を増幅されているのが暴力を伴う紛争の急増で、過去30年と比較しさらに多くの紛争が発生しています。概算で2030年までには、脆弱性、紛争、暴力に悩む国々で暮らす人々が世界の極度の貧困で暮らす人の最大3分の2を占めると予測されています。

この難しい投資環境のなかでも、MIGA はこうした国々を引き続き優先的に支援しました。2020年、MIGA はIDA適格国15カ国に17億米ドルの保証を提供しました。また、コンゴ、ナイジェリア、ソロモン諸島というFCS3カ国でのプロジェクトを支援するため、4億9,500万米ドルの保証を発行しました。IDA適格国及びFCS国の総保証残高はそれぞれ、2019年度から13%、25%増加しました。

今年度、MIGA はIDAの民間セクター投資枠を活用し複数のプロジェクトを支援しました。PSWはIDA18の一環として、IDA融資のみの適格国（IDA-only国）、なかでもFCSに民間投資を呼び込むことを目的に設立されました。2020年度、MIGA はPSWを利用し合計1億9,310万米ドル・4件の保証を発行し、一次損失保証のもと7,350万米ドルをIDAに受け渡しました。支援を受けたプロジェクトは、ネパールとソロモン諸島の水力発電施設、ジブチの風量発電所などとなっています。

MIGAのシエラレオネで展開する
シエラトロピカル・プロジェクト

2020年度に支援した47件のプロジェクトのうちの70%が、IDA適格国、脆弱国・紛争国（FCS）、そして気候変動という、MIGAの戦略的優先分野の少なくとも一つを対象としていました。



気候変動

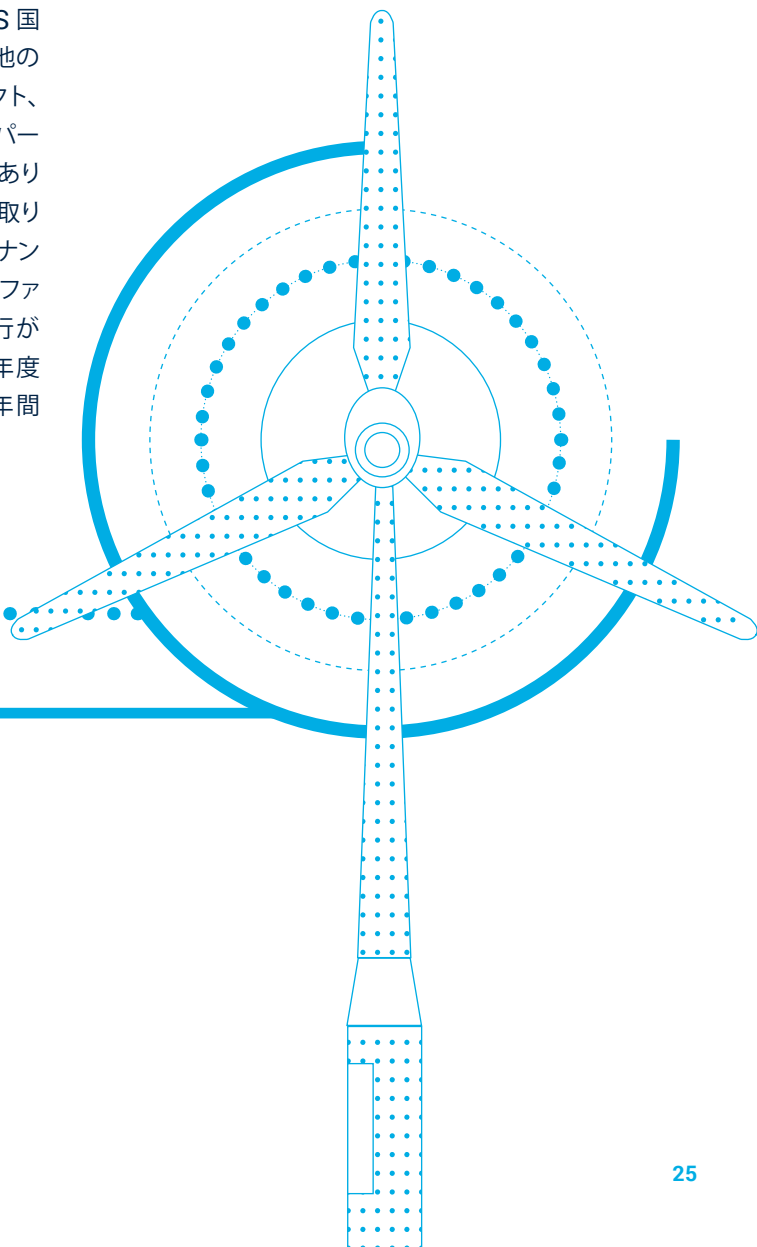
気候変動は、世界銀行グループの2大目標の達成の大きな脅威となっています。社会の最も貧しく最も脆弱な人々に特に大きな影響を及ぼしており、これにより2030年までに貧困層が新たに1億人増加する可能性があります。さらに、わずか3地域に暮らす1億4,300万もの人々が（サブサハラ・アフリカの8,600万人、南アジアの4,000万人、ラテンアメリカの1,700万人）、2050年までに気候変動により移住を迫られる可能性があります。このことから、気候変動の影響の緩和と適応へのコミットメントが不可欠となっています。

今年度 MIGA は、気候変動の緩和策と適応策を支えるプロジェクトを対象に、民間セクターから13億米ドルに及ぶ気候変動ファイナンスを動員しました。今年度は特に北アフリカとサブサハラ・アフリカで再生可能エネルギーへの支援を強力に展開し、新たに、太陽光発電プロジェクトをエジプトで6件、南アフリカで2件、セネガルで2件、さらに風力発電プロジェクトを南アフリカで2件、そしてFCS国であるジブチで1件支援しました。MIGAが支援した他のプロジェクトには、セルビアでの廃棄物発電プロジェクト、気候変動に極めて脆弱なソロモン諸島（FCS国）とネパールでの、気候変動に強い水力発電プロジェクトなどがあります。MIGAは、金融部門のグリーン化にも集中的に取り組む、ケニアとモーリシャスの地域銀行の気候変動ファイナンスを通じた融資の拡充を支援、現在、新たな気候変動ファイナンスについて少なくとも3億2,500万米ドルを銀行が引き受けることができるよう支援しています。2020年度に署名されたプロジェクトにより、CO₂換算で推定年間300万トンの排出が回避されると期待されています。

2021年度～2023年度

今後 MIGA は、「2021～2023年度の戦略及び事業見通し (the FY21-23 MIGA Strategy and Business Outlook)」を実施するなか、IDAとFCS、そして気候変動での取組みと、より優れた成果を挙げるための努力を継続していきます。MIGAはIDAとFCSへの投資の割合を増やすとともに、シニアレベルの職員をナイロビに配置するなど、低所得国と脆弱な環境での新規取引への支援の拡大を図っています。また、クリーンエネルギー、公共交通機関、グリーン・ビルディング、気候変動対応型の農業、そしてグリーン・ファイナンスなどで引き続き気候変動ビジネスを構築していきます。

2021～2023年度の戦略及び事業見通しの詳細は <https://www.miga.org/about-us>をご覧ください。

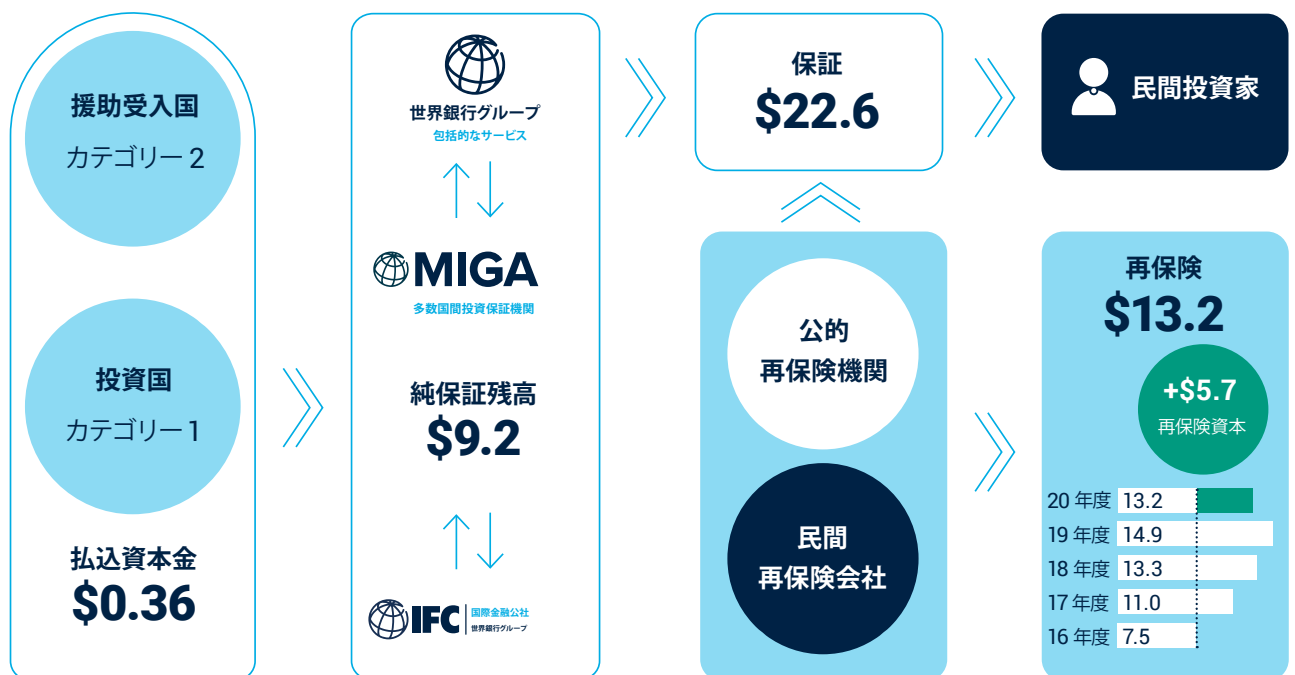


再保険

再保険により、MIGA は資本を効率的に利用しリスクの集中を最小限に抑えることができます。同時に再保険は、MIGA の歳入に受渡手数料（すなわち、再保険業者に受け渡す保険料の一定の割合を MIGA が保有）という形で貢献しています。

MIGA は、再保険能力を引き続き活用し、将来の成長のために資本を残すという戦略に従い、2020 年度、新規ビジネスの 16 億米ドルを再保険市場に受け渡しました。2020 年 6 月 30 日現在、ポートフォリオの残高（グロス）の 58% に当たる 132 億米ドルに再保険がかけられています。過去 5 年間で MIGA は保証ポートフォリオの再保険の利用を 57 億米ドル分増やすことで、株主からの追加資本を必要とすることなく、保証の能力を拡大し成長軌道を確認してきました。

MIGA の運営モデル（単位：10 億ドル）



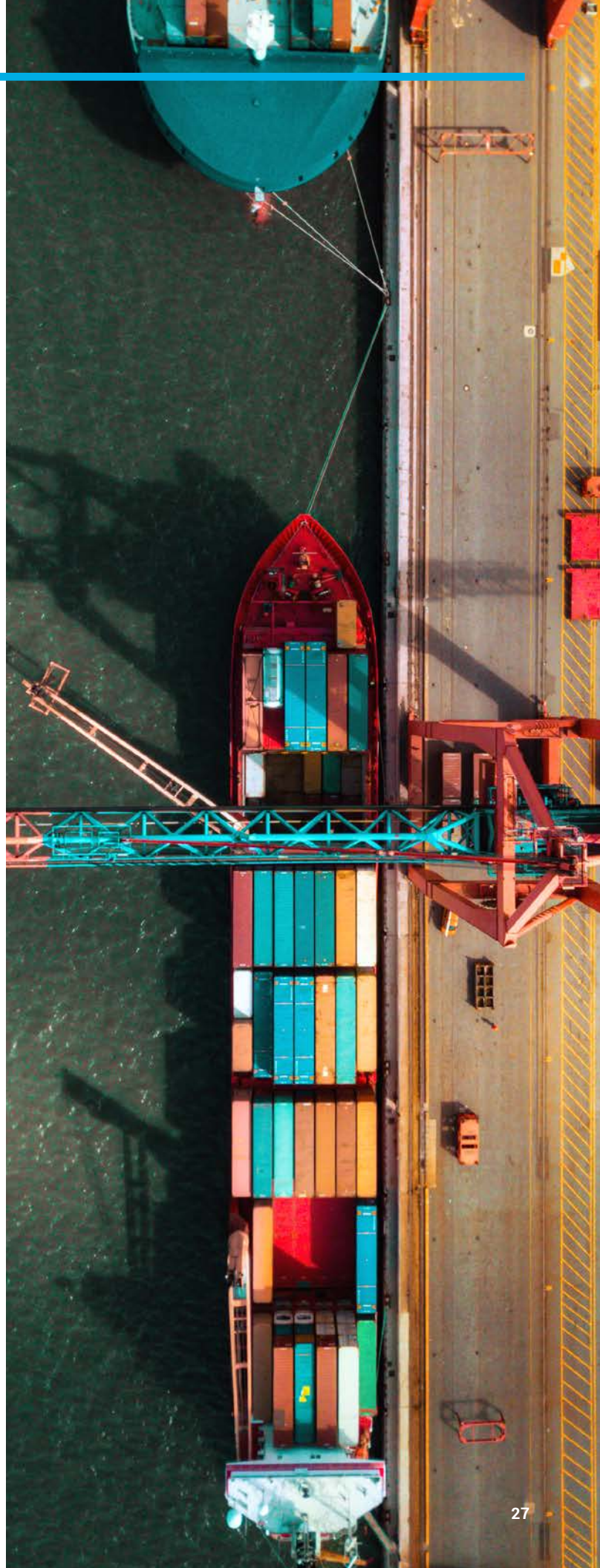
より高い開発 成果をあげる ために、MIGA の パートナーシッ プを活用する

2020 年度も引き続き MIGA は、世界銀行グループのパートナー、各国政府、民間セクター、そして特に国際開発金融機関（MDBs）との関係を一段と強化しました。

MIGA は、2019 年世界銀行グループ・国際通貨基金（IMF）の年次総会で初の「MDB 会議（MDB Guarantee Conference）」を開催し、技術的ワークショップ、二者間会議を行うなど、さまざまなイベントの開催を通じ MDBs との関係を強化しました。こうした取組みにより MDBs 間の対話が進むなか、MIGA は MDBs との連携を通じ、開発プロジェクトの強化と相互補完での協力手法を追求しています。また、MIGA は、政治保険リスクでの MDBs の連携の成功のための原則や、革新的な手法で MDBs の連携が行われたプロジェクト、さらには成功のためのベスト・プラクティス（最善慣行）に焦点を当てたハンドブックも作成しています。これら原則は、開発コミュニティのパートナーとの業務面での合意を目指す MIGA の情報源となります。

MIGA は、他の世界銀行グループ機関との連携の強化に資する手法も追求しており、民間セクターのアジェンダにより大きな成果をもたらすべく、共同商品の開発をはじめとする IFC との連携の新たな手段の強化にも取り組んでいます。

さらに今年度、MIGA は世界公共投資基金（Global Infrastructure Fund: GIF）の正式なテクニカル・パートナーになりました。これは、パートナーシップと上流での取組みを拡大するという MIGA の戦略的目標と合致しています。GIF のプラットフォームは、MIGA と他の MDBs とのより一体的な連携の機会を提供するとともに、これにより、今後のビジネスの展開を支える、上流での取組みに参画するためのリソースを利用することができます。



MIGA & ESG



環境及び社会的持続可能性

MIGA は、顧客と連携し、支援するプロジェクトの環境及び社会的持続可能性の確保に尽力しています。MIGA の環境面・社会面のデューデリジェンスは、潜在的な環境面・社会面のリスクと/またはインパクトを特定しその緩和策に関して合意する包括的なプロセスです。これを基に顧客は、プロジェクトの持続可能性を高め事業の価値を創造することができます。さらにこれは、プロジェクトコストの削減にもつながる可能性があります。MIGA のパフォーマンス・スタンダードは、MIGA の環境及び社会的持続可能性のための政策 (Policy on Environmental and Social Sustainability) の要件を基に、プロジェクトに適用されます。

MIGA は、プロジェクトを定期的にモニタリングし環境要件・社会要件の遵守状況をチェックします。2020 年 6 月 30 日現在、MIGA は約 209 件のプロジェクトを支援しており、地域別では、このうちの約 45% がアフリカ、21% がヨーロッパ及び中央アジア、14% が中東及び北アフリカ、8% がラテンアメリカ、同じく 8% が東アジア及び大洋州、そして 4% が南アジアとなっています。今年度 COVID-19 による旅行規制以前に、社会面・環境面のモニタリングのため、45 件のプロジェクトの現場を訪問しました。また環境面・社会面のパフォーマンスの自己評価を 20 件実施しました。

成果の測定

エビデンスに基づいた信頼性の高い成果測定システムが、開発成果の測定に不可欠です。MIGA はプロジェクト成果の測定手法の改善に継続して取り組んでいます。その成果のひとつが、先に立ち上げた「IMPACT フレームワーク (IMPACT Framework)」です。この「インパクトの成果の評価と比較ツール (Impact Performance Assessment and Comparison Tool : IMPACT)」は、プロジェクトに限定した期待される成果と、そのプロジェクトの範疇を超えた海外投資への効果を測定します。この枠組みは、MIGA のより広範な成果測定システムを補完します。見直された IMPACT フレームワークは以下の目的をもって活用されます。

- 開発成果の事前評価の基準について事後評価で使用される基準と同様のものを用いる。
- IFC の「開発効果測定フレームワーク (Anticipated Impact Measurement and Monitoring: AIMM)」と連携し、IFC と MIGA の合同プロジェクトの開発成果の順位付けを調整する
- プロジェクトに期待される開発成果の比較分析を可能にする
- 期待される開発成果の厳格かつエビデンスを基準とした事前評価に基づき、プロジェクトの優先順位付けに必要な情報を提供する
- IMPACT を MIGA の既存の保証プロセスに効果的に組み込むための機動的なアプローチを採用する

インテグリティ (健全性)

開発パートナーという MIGA の役割を果たすなかで、業務におけるインテグリティとレピュテーションリスクの管理は極めて重要です。このことから、MIGA は顧客とプロジェクトのインテグリティとレピュテーションリスクの双方を重視しています。このため、MIGA は世界銀行グループの「腐敗防止ガイドライン (Anti-Corruption Guidelines)」を採用しています。このガイドラインでは、詐欺、腐敗、談合、強制、そして妨害を開発の主な障害と位置づけ、制裁措置の対象としています。MIGA のインテグリティ・チームは、事業の実施と引受けプロセスの一環としてデューデリジェンスを行うとともに、ポートフォリオのプロジェクトのモニタリングを行い潜在的なインテグリティまたはレピュテーションにかかるリスクを初期の段階で特定します。この際に、MIGA は所有するデータベースや世界銀行と IFC の現地に関する知識、市場環境、顧客との経験、そして現地で実施された評価といったリソースを活用します。2020 年度も MIGA は、世界銀行グループ加盟国及び開発パートナーとの連携や、インテグリティに関するワークショップに参加することで、インテグリティの最善慣行を共有しました。

MIGA のパフォーマンス・スタンダード

MIGA の環境及び社会的 (E&S) 持続可能性に関するパフォーマンス・スタンダード

パフォーマンス・スタンダード 1:

環境及び社会的リスクとインパクトの評価と管理

プロジェクト全期間を通じた E&S のリスクとインパクトの特定と E&S パフォーマンスの管理の重要性を強調

パフォーマンス・スタンダード 5:

用地取得と非自発的な移住

収用や合意の不履行といった土地取引に伴う物理的な移住と生計手段の喪失に適用

パフォーマンス・スタンダード 2:

労働環境・労働条件

雇用創出と所得創出による経済成長の追求と、労働者の基本的権利との間の適切なバランスを確保

パフォーマンス・スタンダード 6:

生物の多様性の保全と生物資源の持続可能な管理

生物の多様性の保護と天然資源の持続可能な管理・利用を推進

パフォーマンス・スタンダード 3:

資源効率と公害防止

産業活動と都市化の拡大は、大気、水質、土壌の汚染の悪化につながるケースが多いこと、並びに効率化の機会が存在することを認識

パフォーマンス・スタンダード 7:

先住民

先住民を十分に尊重した開発プロセスを確立

パフォーマンス・スタンダード 4:

コミュニティの健康、安全と安心な生活

プロジェクトによりコミュニティに利益がもたらされる反面、事故、構造上の欠陥、危険物によるリスクやその影響を受ける可能性が

パフォーマンス・スタンダード 8:

文化遺産

プロジェクト活動の負の影響から文化遺産を保護しその保全を支援

パフォーマンス・スタンダードの便益

事業価値の創造

持続可能性はビジネス戦略で重要な位置を占めるようになってきている。多くの企業が E&S 面の課題への対処が、結果としてコスト削減、ブランドやイメージの改善、ステークホルダーとの関係の強化に資すると認識している。

地域に根差した事業運営

パフォーマンス・スタンダードは、顧客による現地での開発の恩恵の最大化を支え、良き企業市民としての慣行を促す。ブランド価値とレピュテーションの向上が、新たな投資家や金融機関を惹きつける可能性もある。

機会を認識し予期せぬリスクに備える

パフォーマンス・スタンダードの導入により、企業はプロジェクトの推進、ブランド保護、国際市場へのアクセスの維持への障害を特定しこれに備えることができる。

国際的基準への準拠の証として

先進国及び途上国で 75 を超える世界の主要金融機関が採用している「赤道原則」は、本パフォーマンス・スタンダードに準拠している。同原則は新興市場におけるプロジェクトファイナンスによる資金の 70% 強に適用されていると推定されている。

財務パフォーマンスと運営パフォーマンスの改善

パフォーマンス・スタンダードの導入により、水やエネルギーといったインプットを最大限に利用し、温室効果ガスの排出、排水や無駄を最小限にすることで、効率性が向上し費用対効果の高い運営を実現することができる。

MIGA のパフォーマンス・スタンダードに関する詳細は、<https://www.miga.org/guidelines-policy> をご覧ください。

ジェンダーと MIGA

世界銀行グループは、貧困の撲滅への永続的な効果と繁栄の共有を促進する持続可能な経済成長の推進に向け、官民の顧客と連携し世界レベルで男女間の格差の是正に取り組んでいます。こうしたなかで MIGA は、今年度新たにジェンダー戦略を導入しました。これにより、MIGA の業務、プロジェクトと顧客との関係、そして顧客の投資活動を通し女性に機会を創出するというコミットメント全てにジェンダーを完全に組み込むこととなります。

業務

MIGA は、その組織において職員の全てのレベルでジェンダーパリティ（ジェンダー公正）の実現に向け絶えず努力し、職場における多様性（ダイバーシティ）と包摂を重視しています。MIGA は民間セクターでのジェンダー問題への取組みの強化に向けた世界銀行グループの研究・活動を活用しています。また、ジェンダーは、MIGA の環境及び社会的持続可能性のための政策においても分野横断的なテーマとなっています。この政策は顧客に対し、企業活動に起因するジェンダー関連のリスクと意図せず起こり得るジェンダーで異なる影響などを最小化することを求めています。MIGA はジェンダー関連事項をプロジェクトのコンサルテーションの際に確実に評価し、必要に応じジェンダー面から見て適切な持続可能な軽減措置の開発で顧客を支援していきます。

ギニア・アルミナ・コーポレーション S.A.(GAC) のディレクター・ジェネラルであるアイサタ S. ペアヴォギ氏は MIGA の 2020 年ジェンダー CEO 賞を受賞。



MIGA ジェンダー CEO 賞

2016年に設置されたMIGAのジェンダーCEO賞は、女性の機会創出とジェンダーの平等を促進する環境の構築と維持で実績を誇るMIGAの顧客に対し贈られます。今年度、MIGAはギニア・アルミナ・コーポレーションS.A. (GAC)でディレクター・ジェネラルを務めるアイサタS. ベアヴォギ氏にジェンダーCEO賞を授与しました。ベアヴォギ氏はギニア最大のグリーンフィールド投資での持続可能な開発と戦略を監督し、域内における鉱業の事業展開の先進的な事例を示しました。また、ギニア初の国際企業の女性ディレクターに就任した同氏は、現地の女性が経営する企業へのGACの支援を強化するというビジョンのもと、ギニアにおける持続可能な開発、イノベーション、経済成長そして雇用創出を重視し推進するCSR（企業の社会的責任）イニシアティブをリードしています。

カハ・デ・アオロスの住宅ローンの利用者



バンコ・ダビエンダ、コロンビア 女性が経営する中小企業への融資

コロンビアの女性起業家は資金調達で問題を抱えています。同国で資金不足により女性起業家の約14.6%が事業の継続を断念せざるを得ない状況ですが、近隣のアルゼンチン、ペルー、そしてウルグアイなど他の国ではその数字は10%未満です。さらに、女性が経営する中小企業（WSMEs）の30%が信用力の問題を抱えています。これは、フォーマルな資金調達において約54億米ドルが不足していることとなります。

2020年度、MIGAはバンコ・ダビエンダS.A. (Banco Davivienda S.A.)の融資ポートフォリオ、なかでもWSMEsへの融資の拡大を支えるために4,750万米ドルの保証を発行しました。同プロジェクトは、IFCが取りまとめた6億米ドルの融資パッケージの一環で、これにより、コロンビアのシステム上重要な同行によるWSMEsへの融資が3億5,000万米ドル増え、約5,200件の新たな融資が実行される見込みです。

カハ・デ・アオロス、パナマ 女性向け住宅ローン

パナマでは、女性または女性を世帯主とした世帯が所有する住宅の割合はわずか29%です。この住宅所有でのジェンダー格差への対策を支援するMIGAは、カハ・デ・アオロス（Caja de Ahorros）と連携し低所得者・中所得者層向け住宅ローン制度を支えています。この制度はターゲットの約50%を女性または女性世帯主としており、同国における女性の住宅所有につながる環境整備の機会を提供し、女性の資産の構築を支援するとともに、将来的にその経済的・社会的な福祉の増進の可能性を高めたいとしています。

ガバナンス

MIGA の総務会及び理事会

加盟国 182 カ国を代表する総務会および理事会が MIGA のプログラムや活動を指導しています。各加盟国はそれぞれ総務 1 名と総務代理 1 名を任命します。MIGA の権能は総務会に委ねられ、さらに総務会はその権能のほとんどを 25 名で構成される理事会に託しています。議決権数は、各理事が代表する国の出資比率に応じて加重されます。理事はワシントン DC にある世界銀行グループ本部で定期的な会合を開き、投資保証プロジェクトの審査と承認、ならびに全般的な運営方針の監督に当たります。

詳細については、総務会および理事会のウェブサイトをご覧ください：<http://www.worldbank.org/en/about/leadership/governors>

監督と アカウントビリティ

コンプライアンス・アドバイザー・ オンブズマン

コンプライアンス・アドバイザー・オンブズマン (CAO) 室は、MIGA と IFC の説明責任を追及する独立したメカニズムで、世界銀行グループ総裁の直下に置かれています。CAO は、MIGA と IFC が支援するビジネス活動の影響を受けた人々の苦情に対処します。その目標は、現地での環境・社会面の成果を高め、両機関の一般に対する説明責任を強化することにあります。

詳細については、CAO のウェブサイトをご覧ください：<http://www.cao-ombudsman.org/>

グループ内部監査

グループ内部監査 (Group Internal Audit : GIA) は、独立した客観的かつ洞察に満ちたリスクベースの保証報告と共に世界銀行グループの価値の保護と向上に関する助言を行います。GIA は経営陣と理事会に対し、リスク、そして総合的なガバナンスを管理しコントロールするためのプロセスが適切に設計され効果的に機能していることを合理的に保証します。GIA は総裁直属であり、監査委員会が監督しています。

詳細については、GIA のウェブサイトをご覧ください：<http://www.worldbank.org/internalaudit>

独立評価グループ

独立評価グループ (IEG) は、MIGA の開発成果の向上を目的に、MIGA の戦略、方針、プロジェクトを評価しています。IEG は MIGA の運営チームから独立しており、MIGA の理事会と理事会の開発効果委員会に評価結果を直接報告します。

詳細については、以下のウェブサイトをご覧ください：<http://ieg.worldbankgroup.org/>

組織公正総局 (INT)

組織公正総局 (The Integrity Vice Presidency: INT) は、世界銀行グループ内の独立したユニットで、WBG が資金を拠出するプロジェクトの詐欺、腐敗、談合、強制、そして妨害、さらには WBG 職員や業者による詐欺と腐敗に関する申立ての調査を行い制裁措置を追求します。さらに、WBG のインテグリティ・コンプライアンス室 (Integrity Compliance Office) を通じ、関係者と共に制裁解除に向けた条件の整備に取り組みます。INT が調査で得た知識は WBG 全体で共有され、プロジェクトの詐欺や腐敗のリスクの削減に貢献するなど、INT は WBG に課せられた開発リソースの受託責任の遂行を支える不可欠な役割を担っています。

詳細は INT のウェブサイトをご覧ください：www.worldbank.org/integrity

詐欺、腐敗など WBG が資金を拠出するプロジェクトで制裁措置が必要と思われる行為については、www.worldbank.org/fraudandcorruption までご報告ください。

MIGA 財務要約

財務結果

年度別、100 万ドル	2016	2017	2018	2019	2020
総受取保険料	139.8	179.7	210.1	237.9	232.3
純受取保険料 ^a	86.4	93.2	104.1	115.1	117.1
一般管理費 ^b	48.1	51.3	51.6	57.8	61.1
営業利益 ^c	38.3	41.9	52.5	57.3	56.0
純利益	56.8	200.2	40.9	82.4	57.2
純受取保険料に対する 一般管理費の比率	56%	55%	50%	50%	52%

a. 純受取保険料は、総受取保険料および受渡手数料から、再保険業者に受け渡す保険料および仲介手数料を減じたもの

b. 一般管理費には、年金および他の定年退職後の給付プランの費用が含まれる

c. 営業利益は純受取保険料から一般管理費を減じたもの

資本情報

年度別、100 万ドル	2016	2017	2018	2019	2020
経済資本合計 ^a	663	592	685	717	756
株主資本	989	1,213	1,261	1,320	1,335
運転資本	1,329	1,398	1,471	1,542	1,591
経済資本合計 / 運転資本 (%)	50%	42%	47%	47%	48%

a. 経済資本合計 (EC) は、保証ポートフォリオの資本消費に、オペレーショナル・リスクと投資リスクへの対応に要する資本を加算したもの。2017 年度より、EC は新しいモデルに立脚しており従来の EC モデルを基盤とした過去の期間のデータとは比較できない。

2020 年度のスポットライト



世界銀行グループ・IMF 年次総会 – 2019 年 10 月、ワシントン DC

250 人以上が参加した年次総会の MIGA のイベント「ESG 投資の動員 (Catalyzing Environmental, Social and Governance Investment)」には、民間の投資家が集まり、環境、社会、ガバナンス (ESG) インパクトを投資戦略にどのように組み込みんでいるかについて意見を交わすとともに、MIGA のような関係者がこうした目標をどのように支援できるかについて協議しました。このイベントは MIGA の支援を受けた西アフリカ最大の風力発電所で、約 200 万人の住民にクリーンなエネルギーを提供するパーク・エオリエン・タイバ・ヌジャイ (Parc Eolien Taiba N'diaye) を取り上げました。

パネリストとして、ESG インベストメント・アンド・アセット・スチュワードシップ / ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズのラーキー・クマール・シニア・マネージング・ディレクター、ナショナル・インベストメント・アンド・インフラストラクチャー・ファンド・フォー・インディアのスジョイ・ボズ CEO、MIGA のヴィジェイ・アイヤー COO、本田桂子 MIGA 前長官兼 CEO が参加しました。司会はブルームバーグ・ビジネスウィークのジョエル・ウェーバー氏が務めました。



国際開発金融機関会議

MIGA は、2019 年世界銀行グループ・IMF 年次総会期間中に、史上初となる MDB 会議を開催しました。MDB の幹部が参加したこの会議は、MIGA がより体系的な連携への支援を引き出す機会となりました。

新しい経営陣

2019 年 11 月、俣野弘が MIGA の長官に就任しました。また同年 9 月には、副総裁兼リスク・法務・総務責任者にエチオピスタファアラが就任しました。





ソマリア、MIGA に加盟

3月、世界銀行とソマリアの財務面での関係正常化を受け、ソマリア連邦政府がMIGAに182番目のメンバーとして加盟しました。この加盟により今後、対外直接投資の誘引と経済成長の促進の新たな機会が誕生することが期待されています。



インパクト投資の運用原則

2020年2月、MIGAは「インパクト原則」として知られる「インパクト投資の運用原則 (Operating Principles for Impact Management)」に署名しました。このインパクト原則は、インパクトへの配慮を投資の全期間に目的をもって組み込むための投資家を対象とした枠組みです。今回の加盟によりMIGAは、インパクト投資の世界的な原則に従うというコミットメントを公に示すことになりました。加盟機関には、毎年、投資プロセスに各原則がどのように反映されているか、そしてその遵守状況についての開示説明を行うことが求められています。

2020年 MIGA ジェンダー CEO 賞

2020年3月、MIGAはギニア・アルミナ・コーポレーション S.A.(GAC)のディレクター・ジェネラルを務めるアイサタ S. ベアヴォギ氏に、2020年ジェンダー CEO 賞を授与しました。同氏は、リーダーシップを発揮し職場での女性のエンパワメントに貢献し女性の認知度を高めました。



MIGA 経営陣

侯野弘

MIGA 長官



S. Vijay Iyer

副長官兼 COO



Ethiopsis Tafara

副総裁兼リスク・
法務・総務責任者



Sarvesh Suri

オペレーション担当局長



Muhamet Fall

オペレーション担当副局長・
保険引受責任者



**Aradhana
Kumar-Capoor**

ディレクター兼顧問



Santiago Assalini

ファイナンス・リスク担当局長



Merli Margaret Baroudi

経済性・持続可能性審査担当局長



連絡先情報

MIGA 幹部

侯野弘

MIGA 長官

hmatano@worldbank.org

S. Vijay Iyer

副長官兼 COO

sviyer@worldbank.org

Ethiopia Tafara

副総裁兼リスク・法務・総務責任者

etafara@worldbank.org

Sarvesh Suri

オペレーション担当局長

ssuri1@worldbank.org

Muhamet Fall

オペレーション担当副局長・

保険引受責任者

mfall3@worldbank.org

Aradhana Kumar-Capoor

ディレクター兼顧問

akumarcapoor@worldbank.org

Santiago Assalini

ファイナンス・リスク担当局長

sassalini@worldbank.org

Merli Margaret Baroudi

経済性・持続可能性審査担当局長

mbaroudi@worldbank.org

部門

Nabil Fawaz

製造、アグリビジネス、

総務部長グローバルヘッド

nfawaz@worldbank.org

Elena Palei

インフラ・輸送・水道と衛生・

テレコム部長グローバルヘッド

epalei@worldbank.org

Chris Millward

金融・資本市場部長グローバルヘッド

cmillward@worldbank.org

Marcus Williams

エネルギー・資源採掘産業部長

グローバルヘッド

mwilliams5@worldbank.org

地域拠点

Hoda Moustafa

アフリカ地域代表

hmoustafa@worldbank.org

Olga Sclovscaia

ヨーロッパ・中央アジア地域代表

osclovscaia@worldbank.org

Jae Hyung Kwon

南アジア・北アジア（日本を除く）

地域代表

jkwon@worldbank.org

Tim Histed

東南アジア・オーストラレーシア地域代表

thisted@worldbank.org

Olga Calabozo Garrido

ラテンアメリカ・カリブ海地域代表

ocalabozogarrido@worldbank.org

林田修一

駐日代表

shayashida@worldbank.org

Rouzbeh Ashayeri

上級保険引受担当者・北米事業開発責任者

rashayeri@worldbank.org

Layali Abdeen

上級保険引受担当者・中東・

北アフリカ地域代表

labdeen@worldbank.org

Lin Cheng

保険引受担当者・中国代表

lcheng1@worldbank.org

会計・報告

Thomas Obuya

会計監査役

tobuya@worldbank.org

再保険部門

Christina Deischl

再保険責任者代理

cdeischl@worldbank.org

経済性・持続可能性

Moritz Nebe

経済性担当セクター・マネージャー

mnebe@worldbank.org

Yasser Ibrahim

持続可能性（環境・社会）及び気候

担当セクター・マネージャー

yibrahim@worldbank.org

Judith Pearce

インテグリティ担当グローバルヘッド

jpearce@worldbank.org

Cherian Samuel

評価担当リードオフィサー

csamuel@worldbank.org

ビジネスに関するお問い合わせ

migainquiry@worldbank.org



世界銀行グループ

世界銀行
IBRD・IDA

IFC

国際金融公社

MIGA

多数国間投資保証機関

設立以来 MIGA は途上国
118 カ国で 590 億ドル
以上の保証を提供しました。

MIGA をフォローする：



<https://www.linkedin.com/company/wb-miga/>



@miga



MIGAWorldBank